二〇二三年度　一般入試A日程

国　語

〔注　意　事　項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は21ページ、解答用紙はマークシート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、解答用紙（マークシート）に記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、解答用紙（マークシート）の所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があってから、解答用紙（マークシート）の左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

国語

（60分　100点）（解答番号 1 ～ 39 ）

第一問　次の文章は、昭和初期を時代背景とする、芝木好子の「隅田川」の一節で、恭子が伯父の高津の家を訪れた場面である。恭子の父の菊良は呉服店を営んでいたが、脳溢血で倒れたために店の経営も傾きかけている。これを読んで、後の問いに答えなさい。（55点）

ある日の放カ(1)後、恭子は渋谷松濤にある高津の本家へ回った。ひっそりした(2)住宅地のなかにある石の門の家であった。彼女がふいに尋ねていったので、(3)伯母は怪訝な警戒する表情をみせた。

「お父さんの加ゲン(4)はいくらかよくて」

「それが相変わらずなの」

「あの病気はながいのよ」

伯母はいい、それから恭子の家のことを根掘り葉掘りたずねはじめた。店はどうなっているか、医者にどれほど(5)シャ礼をしているか、どの親戚がいつ見舞いにきて、どんな見舞い品をよこしたかなどであった。この質問から逃れるために、

「誠兄さんは？」

と恭子はわざとたずねた。

「誠也(注1)は相変わらず本郷の下宿にいますよ。ほんとに変わり者で、うちの勉強部屋より汚い下宿を転々としていますよ」

「そう」

恭子は聞き流した。伯母の愚痴を聞きはじめたらこれも長いにきまっている。この日めずらしく(6)伯父は風邪気味で家に籠もっていた。痩せた伯父は床の上で咳をしながら、かまわず煙草を吸っていた。鼻下に髭を蓄え、滅多に笑わない気難しい顔で、末

弟の菊良とは少しも似なかった。
「お前の父親は、相変わらず寝ていて我儘をいってるか」
恭子は黙った。
「今日はなんできた、金のことか」
恭子はとっさに意味が呑みこめなかった。
(7)「ならいい」
伯父はいったが、恭子は不意だったので胸を衝かれ、金という連想に顔を赤らめた。いまだかつて恭子は人からこの種類の屈辱をうけたことはなかった。女中がお茶を運んでくると伯母はそれをすすめながら、いつものねっとりした声でいった。
「Mデパートが浅草に開店したそうね、どんな？」
「さあ、知りません」
「あなたのお父さんもMデパートへはいっておけばよかったのに。目先が利かなかったのね」…（　②　）
「あれは冗談ばかりで、肝腎なことのできない男だ。馬鹿もいいところだろう」
父が元気な時分には伯父たちからこんな悪口は聞かなかったと恭子は思った。彼らは菊良一家から寄りかかられる予感に脅えて、嫌悪の感情を持っている。恭子はこの思いに傷つけられた。誠也のいない家のなかは空虚で、いつになく居辛くつまらなかった。
「お前の家は女の子ばかりだ。女学校を出たらどうする」
伯父は恭子の将来について口にした。だが彼女は将来どうする目的も志望もなかった。
「すると毎日のらくらしているのか」
「そう」
…（　①　）

と恭子は(9)やむなく答えた。

「勉強して女医になれ。金になるし、お前は独立する必要がある。菊が死んでも、財産で学校くらいはゆけるように処分してやる」

伯父は恭子の意志を(10)タメしたが、(11)恭子は無言であった。

「菊は商人になったが、高津の一門で商人になったのはお前のとこだけだ」

その声音には侮蔑があった。そばで伯母がおもしろそうに、

「恭ちゃんのお父さんは末っ子で甘やかされたせいでしょ、幾度書生にはいってもそこを逃げだしてきたのですって」

「お前の祖先は(12)れっきとした松平藩の武士の家系なのだ。お父さんに聞いたろう」…（　③　）

恭子は昔のことなど聞いたこともない。彼女の父は現在にしか興味のない男だ。父が勅題(注2)の和歌を出すとき、士族とつけるだけは知っていた。伯父は不服げに舌打ちした。娘の躾そのものがなっていないばかりか、教えることも教えないのは両親の怠慢であろう。伯父がこんなことを喋りだすのも、彼は今日退屈しているからであった。普段の彼はむっつりとして、仕事以外の饒舌は損だと心得ていた。

「高津の祖先は島根県石見国の浜田城主、松平右近将監武聡とよぶ殿様の藩士だった。浜田というのは山陰の松江、出雲から萩につづく日本海に面したながい海岸線のなかにある。六万五千石だが、将軍さまの弟だから親藩なのだ。高津家はお舟方を勤めたが、お前の祖母の出の坂田家は庭奉行だった。その後、慶応二年に国替えがあって、岡山鶴田藩に移ったから、伯父さんたちはみなそこで生まれた。剛毅な気風の藩で、坂田の祖父に伯父さんたちは漢語ばかりか剣も習ったが、菊良だけはそのあと東京で生まれた。軽佻浮薄な気質に染んだのはそのせいだ」

恭子は先祖になんの興味もなかったし、過去の系譜が自分の血を形づくることにも無関心であった。彼女が感じるのは石の門の邸に住む伯父への劣(13)トウ意識であって、それさえなければこれほど伯父の父にむけた誹謗を、聞いていなかったであろう。

…（　④　）

彼女は目をあげた。誰よりもさきに、いま飛石を伝って庭先からはいってくる人間に気付いた。夕暮れの傾きかけた陽を浴びながら、学生服を着たひょろ高い誠也が現れた。夕映えの赤さのために彼は眩しげに皺をよせていた。その顰めた顔を目にいれたとき、恭子は苦痛とも喜悦ともしれない感情に捉われた。彼と自分とがおなじ血筋のなかの人間であったことも同時に気付いた。その繋がりのなかに今日まで彼と自分はいたのだ。

「まあ、誠也ですよ」

伯母が声をあげた。この現れかたは幽霊と思わせるに充分だった。

「なんですね、お玄関からあがるものよ」

形式好きな伯母は非難がましくいったが、息子が久しぶりに帰ってきたことに呆然としたほどだった。その純粋な悦びかたは、彼が何ヵ月ぶりに現れたことを正直に語ることになった。…（　⑤　）

誠也はもともと痩せぎすだが、また一段と痩せが目立ち、肩先が尖ってみえた。彼は両親に柔和な笑みを浮かべながら、縁先へ歩いてきた。

「恭ちゃん、しばらく」

そういった。彼の病んでみえる細い身体と、疲れてくろずんでいる顔へ目をやり、そのやさしい微笑にあうと、恭子は殉教者(14)を仰ぐときの息苦しさを感じた。それは重たく苦痛な荷を負っている人間として恭子の胸をしめつけた。彼女はその暗い微笑に捉えられながら、もし彼の荷を軽くできるなら、自分でどんなことでも分かつだろうと思った。

誠也が現れたことで、(15)この家の空気は一変した。伯母は大きな声で女中をよび、珍客を迎えた支度にあれこれと用事をいいつけ、自身はそわそわと息子へ質問の雨を降らせた。伯父は煙草に火をつけて一服(16)すると、息子の専門の経済学についてたずね、すぐ煙草をねじり消した。誠也は父と母に挟まれて、そのとりとめない問いに、(17)従順な息子らしく答えていた。彼は両親の高ぶった感情にいくらか、当惑しながら、神経を配った微笑を絶やさなかった。伯母はもっぱら下宿の食事のことをたずね、そのせいか顔色が冴えないが、家へ帰ってはどうかと案じはじめた。恭子は目を遠くの庭へやりながら、これほど睦まじい親と子の間に、

どうにもならない落差のあるのを、見落とすことはできないと思った。

（芝木好子「隅田川」による）

（注1）誠也――高津夫婦の長男。

（注2）勅題―天皇が出す詩歌の題。

問1　傍線番号(1)・(4)・(5)・(10)・(13)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1 ～ 5

(1)　放カ後　1

① 機械をカ働させる
② 責任を転カする
③ 野菜を出カする
④ 当面のカ題と取り組む
⑤ 受験カ目を勉強する

(4)　加ゲン　2

① 資ゲンが枯渇する
② 門ゲンに遅れる
③ ゲン点に立ち返る
④ 暑さで食欲がゲン退する
⑤ ゲン粛な式典

(5)　シャ礼　3

① 容シャしない
② 公の場で陳シャする
③ 傾シャ地に家を建てる
④ 条件反シャの実験をする
⑤ 情報をシャ断する

(10)　タメし　4

① 雑シを片付ける
② 予定通り実シする
③ シ格を取る
④ 政府のシ問機関
⑤ シ練を乗り越える

(13) 劣トウ 5

① トウ身大の銅像
② 徒トウを組む
③ 文壇へのトウ竜門
④ トウ論会を開催する
⑤ 消トウ時間を守る

問2 傍線番号(2)・(8)と同じ意味・用法のものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。 6 ・ 7

(2) ひっそりした 6

① 昨夜近所で火事があった
② 勉強したら遊びに行っていい
③ 尖った鉛筆で書く
④ 承知しました
⑤ さあ、買った買った

(8) 寄りかかられる 7

① 返事が待たれてならない
② まんまとだしぬかれた
③ 社長に就任された
④ 好きなように遊ばせればよい
⑤ 遠くて徒歩では行かれない

問3　傍線番号(3)「伯母は怪訝な警戒する表情をみせた」とあるが、この時の伯母の様子の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 8

① 伯父のいる本家を敬遠してめったに顔をみせない恭子が、突然きたことに驚いている。
② 誠也がいないにもかかわらず、恭子が突然やってきた意図がつかめず困っている。
③ 恭子の父親の容体が思わしくないことを恭子の表情から察し、戸惑っている。
④ 恭子が親に頼まれて経済的な援助を申し込みにきたのではないかと疑っている。
⑤ 恭子が突然訪ねてきた理由がわからず難癖をつけて追い返そうとしている。

問4　傍線番号(6)「伯父」は本文でどのような人物として描かれているか。その人物像を説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 9

① 気難しくて、武士の家系であることをいまだに鼻にかけるような、頑迷固陋（ころう）で孤独な人物。
② 気難しくて嫌味なところもあるが、親族の窮状をだまって見過ごせない、情に厚い人物。
③ 武士の出であることにこだわりを持つ一方で、打算的な面もあわせ持つ、二面性のある人物。
④ 普段はむっつりとして気難しいが、姪（めい）の恭子の前では機嫌がよく、饒舌になるような人物。
⑤ 武士の家柄を誇り、寡黙と剛毅を重んじる一方で、軽佻浮薄な気質も好む人物。

問5　傍線番号(7)「ならいい」とはどのような意味か。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 10

① 金の相談で来たのなら、任せておけ
② 金の相談で来たのなら、お断りだ
③ 金の相談で来たのかどうか、正直に言ってみろ
④ 金の相談で来たのでないなら、何の用だ
⑤ 金の相談で来たのでないなら、安心した

問6　本文を内容の展開から二つの部分に分けた場合、前半はどこまでか。本文中の（ ① ）～（ ⑤ ）の中から一つ選びマークしなさい。 11

問7　傍線番号(9)・(12)・(14)・(17)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。 12 ～ 15

(9)　やむなく　12
① 力なく
② 何気なく
③ やめて
④ 素直に
⑤ 仕方なく

(12)　れっきとした　13
① 途切れることなく代々続いた
② とても優雅だが古めかしい
③ 立派な家柄として世間も認める
④ 居並ぶ中でも抜きん出ている
⑤ 歴史に名を残した

⑭ 殉教者 14

① 国家の発展のために尽力する人
② 信仰する宗教のために命を捨てる人
③ 主義・主張を掲げて説いて回る人
④ 教職を天職として一生を捧げる人
⑤ 学問に命を捧げて精進する人

⑰ 従順な 15

① 正直で親孝行な
② 利発で思慮深い
③ 優しくて情の深い
④ 素直で人に逆らわない
⑤ 気弱で内気な

問8 傍線番号⑪「恭子は無言であった」とあるが、この時の恭子の心情を説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 16

① 将来のことは何も決めておらず、伯父の提案に対しても答えようがなくて戸惑う気持ち。
② 伯父の言うことはもっともだと思うものの、伯父の世話にはなりたくないという気持ち。
③ 父のことを悪く言い、自分の決めた将来にも口出ししようとする伯父に強く反発する気持ち。
④ 何の目的もなく、毎日のらくらしている自分が女医になれるわけがないと伯父にあきれる気持ち。
⑤ 女医になれという伯父の提案が、本心から出たものなのかどうかを見極めようとする気持ち。

問9　傍線番号⑮「この家の空気は一変した」とあるが、どのように変わったのか。その説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 17

① 安閑から喧騒（けんそう）へと変わった
② 消極から積極へと変わった
③ 平穏から緊迫へと変わった
④ 勤勉から怠惰へと変わった
⑤ 険悪から親密へと変わった

問10　傍線番号⑯「服」と同じ意味の熟語を、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 18

⑯ 一服

18

① 服用
② 礼服
③ 服従
④ 服役
⑤ 感服

問11　本文における誠也に対する恭子の思いを説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 19

① 自分が協力して誠也の負担を少しでも軽くしてやることで、誠也の愛にこたえたいと望んでいる。
② いとこ同士の親密感に加えて誠也を異性として意識しており、彼のために役立ちたいと強く願っている。
③ 自分と誠也がおなじ血筋の人間であることに改めて思い至り、親族としての義務を果たしたいと望んでいる。
④ 一段と痩せて病んでみえる誠也の細い身体を心配し、危険な活動から身を引いてほしいと心底願っている。
⑤ 気難しい両親に反抗的な態度を取り、恭子にはやさしく接してくれる誠也を好ましく思っている。

問12　本文の内容や表現の特徴を説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。　20

① 恭子が伯父一家に対して抱いている愛憎の入り交じった複雑な感情が、恭子自身の視点から、比喩（ひゆ）を多用した心理描写を中心に描かれている。

② 家系にこだわる伯父たちと、自らの信念に従おうとする誠也たちとの世代間のずれが、両者を超越した客観的で公平な視点から描かれている。

③ 伯父夫婦に傷つけられた恭子の心が、誠也によって次第に癒（いや）されていく様子が、恭子と誠也の心理的交流を中心に描くことで明らかにされている。

④ 恭子と伯父一家とのやりとりが会話文を中心に描かれているが、その要所要所には恭子の目と意識に即した描写が挿入されている。

⑤ 表面的には穏やかに見える親子関係の裏に隠された深刻な断絶が、第三者の立場に立って観察する恭子の視点から分析的に描かれている。

第二問　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（45点）

「仮想の地球社会」化は人々の視野を国家を超えて広げ、世界市民主義的価値の重要性を再確認させた。しかし人々は一つの地球社会を共有してはいないので、(18)地球市民は生まれてはいない。市民とは、単に一般的な道徳感を共有するだけでなく、より深いレベルでの法的、社会的、精神的価値観を共有する存在だからである。道徳について言えば、古来から世界のほとんどの社会で最低限の道徳はそれほど異なっていなかった。嘘（うそ）や盗みや殺人が許されないことはどこの社会でもほぼ共通である。

(19)　それは最低限の道義であって、誰（だれ）でもが食べられる栄養だけしかない宇宙食のようなものである。市民としての価値の共有とはより深いものである。たとえば、どのような行為が罪となり、どの程度の罰を受けるのかについて、ある種の共通感覚、つまり常識が共有されていなければならない。そのレベルでは、日本料理と西洋料理が違うように、現在でも人類は多様な価値観をもっている。そしてそのような深い価値の共有のある社会において初めて、人間は市民となるのである。この意味で人々は依然として地球市民ではない。そうした多様性を前にして、強制的民主化や普遍的司法権や人道的介入の範囲を広げることは一見国際的な倫理的統一を強めるように見えながら、実際には世界の価値観の相違を強めてしまう危険をはらんでいる。

(20)　、普遍的倫理の実質化、内面化という「広い統合」の実現のためには、人類が全般的な価値観を共有する「深い融合」をともなっていなければならない。それでは「仮想の地球社会」は深い融合をもたらしえるだろうか。

コミュニケーション技術の発達は社会をいっそう強く結びつけると一般に考えられてきた。たとえばコミュニケーション技術の発達と近代(21)ナショナリズムの形成過程とを結びつけ、前者が(22)　的な国民を生み出す役割を果たしたという見解を支持する研究者は多い。政治学者カール・ドイチュは社会的コミュニケーションの増大が、統一された国語をはじめとする国民文化を生んだと指摘した。社会学者のアーネスト・ゲルナーや人類学者ベネディクト・アンダーソンも、近代的なコミュニケーション技術の発達が一体的な国民をつくりだす役割を果たしたと指摘している。

それでは、今日普及しつつある、国境を越えてグローバル化した現代のコミュニケーション技術は、かつて均質的な国民を生

み出したのと同じように、地球社会を均質化し、さまざまな文化を融合して単一の地球文化を生み出すのだろうか。

現在のところ、そのような徴候は見えない。(23) 文化的多様化の傾向のほうが目立っている。(24) 実際、二十世紀の後半になって国家の数は急速に増大したし、自己主張を強める少数民族の数はいっそう多い。そしてアメリカの政治学者サミュエル・ハンチントンの論文「文明の衝突か？」（一九九三年）が話題を呼んだことが示しているように、人々は文化的、文明的対立を感じ、また恐れているのである。

かつてのコミュニケーション技術が国民統合的な機能をもったとするなら、グローバルな統合に向かっていないように見える今日のコミュニケーション技術とは何が異なっているのだろうか。

第一に、現代のグローバルなコミュニケーション技術と近代的なコミュニケーション技術との(25)質的な相違を指摘できよう。この点でマクルーハンの指摘は(26)示唆的である。彼は、活字印刷技術が国家主義、産業主義、マス市場、識字と教育の普及をもたらし、「伝統的な集団から個人を解放し、もう一方で、個人と個人を合わせて巨大な権力の集合体にするにはどうするか、そのモデルを提供する」と指摘した。

マクルーハンは印刷メディアが中央集権的効果をもったことを論証した後、彼が電気的メディアと総(27)ショウするもの（電信電話、ラジオ、映画、テレビなど）の性質とは大きく異なっていることを強調する。マクルーハンは一八四四年に実用化された電信の力を印刷メディアと対比して次のように指摘する。「文字文化的人間はすべて、もっとも進んだ意見が、画一的、平面的、同質的なパターンをもって、『もっとも後進的な地域』へ、そしてもっとも文字文化の低い人びとへ拡大していくことを心の中で熱望している。電信はこの希望をうちくだいた。電信のせいで中央集中的な新聞の世界は徹底的に解体され」、「地方新聞は、従来は郵便局を介しての郵便サービスと政治的統制に依存せざるをえなかったが、(28)新しい電信サービスという手段を手にいれることによって、この『中心―周縁』型の独占からたちまち離れることになった。……電気革命のすべての分野にわたって、この脱集中化のパターンはさまざまな装いのもとに現れる」。「電気メディアは空間的次元を拡大するというよりも、むしろ無効にしてしまうのである。電気によって、われわれはいたる所で、ごく小さな村にでもいるような(29)、人と人との一対一の関係を取り戻す。

それは深層における関係であり、機能や権限の(30)イ任とは無縁な関係である。……お説(31)ハイ聴に代わって対話が生まれる。最高の権威者も若者と親しくことばを交わす」。

つまりマクルーハンの指摘では現代の電気的メディアは、従来の印刷メディアが支えてきた中央集権的で抑圧的な国民国家を解体し、自由と平等をもたらす傾向をもつというのである。事実、マクルーハンはこの面を強調して「地球村（global village）」という有名な概念を提出した。しかし、マクルーハンの分析が鋭い指摘を含む一方で、現代メディアが「ごく小さな村にでもいるような、人と人との一対一の関係を取り戻す」ことにはならないことも今日では明らかとなってきた。現代のコミュニケーション技術はマクルーハンの言うように活字印刷の時代からより以前の口誦（こうしょう）文化の時代へと戻ったわけではなく、高度な科学技術に支えられている。それは文化人類学者の青木保の言葉を借りれば、極端に「速い情報」をやり取りするメディアであり、瞬間ごとの切り取られた情報を伝えはするが、深い人間関係を形成する濃密な「遅い情報」を伝えることはできないのである。

伝統的な社会でのコミュニケーションは、相互の心の中に相手への共感を生み、(32)そこに理解が成立する。活字によるコミュニケーションは共感の代わりに読み手の想像力を(33)カン起する。これに対して、電気的メディアによるコミュニケーションは共感を呼びさますには速くかつ細分化されすぎているし、あまりに我々の情緒の近くまで迫ってくるため、想像力の働く余地もない。マクルーハンの説くように、電気的メディアは「想像の共同体」としての国民意識や中央集権的な国家を弱体化するかもしれないが、それに代わって地球市民を生み出すわけではないのである。

むしろ現代の電気的メディアによるコミュニケーション技術は、そもそも共感をもちうるような相対的に小さな集団内で自己確認を強める傾向をもつようである。仮想の地球社会を生み出すコミュニケーション技術は、同時に文化的な分散化、多様化、差異化を促しもするのである。一九六〇年代頃（ころ）から、政治的、社会的分析において「エスニック集団」とか「エスニシティ」という意識が強まってきたが、それは地球規模の電気的メディアの発達と無縁ではない。映像や音声の伝達能力の向上は、印刷物による理性的(34)ドウ察とは異なる、より精神的、感覚的な［(35)］意識を強化する機会を広げているのである。

（中西　寛（ひろし）『国際政治とは何か』による）

問1　傍線番号⑱「地球市民」の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 21

① 強制的な民主化によって、深い価値の共有を内面化した人々
② 仮想の地球社会によって、世界市民の重要性を認識している人々
③ 共通の価値観をもちながら、ある種の感覚を共有する人々
④ 一つの地球に生きるものとして必要な、一般的な道徳感を共有する人々
⑤ 普遍的な価値や倫理を内面化し、一つの地球社会を共有している人々

問2　空欄番号 ⑲ ・ ⑳ ・ ㉓ に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。ただし、重複は避けること。 22 ～ 24

① むしろ　② つまり　③ したがって　④ ところで　⑤ しかし

⑲ 22
⑳ 23
㉓ 24

問3　傍線番号(21)・(26)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。 25 ・ 26

(21)　ナショナリズム　25

① 国際関係
② 民主化運動
③ 産業社会
④ 国家主義
⑤ 市民社会

(26)　示唆的　26

① 未来を正確に予言している様子
② それとなく教えている様子
③ はっきり断言する様子
④ 他のものと際立って違う様子
⑤ 読者に語りかける様子

問4　空欄番号 (22) に入る語句として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 27

① 個性　② 文化　③ 同質　④ 近代　⑤ 民主

問5　傍線番号㉔「文化的多様化の傾向のほうが目立っている」とあるが、それはなぜか。その理由の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 28

① 現代のコミュニケーション技術は、想像力をかき立てて、直接一人一人の心の中に接近していくように働くから
② 現代のコミュニケーション技術は、想像力なしで共感できる小集団での自己確認を強めるように働くから
③ 現代のコミュニケーション技術は、文化的に分散化・差異化して、想像の共同体を形成するように働くから
④ 現代のコミュニケーション技術は、抑圧的な国家を解体し、人と人との一対一の関係を取り戻すように働くから
⑤ 現代のコミュニケーション技術は、相対的に小さな集団内での伝統的な人間関係を求めるように働くから

問6　傍線番号㉕「質的な相違」の説明として、不適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 29

① 国民国家を支えるか、エスニシティを意識するかという相違
② 情報の受け手の想像力を促すか促さないかという相違
③ 中央集権的な傾向が強いか、分散的な傾向が強いかという相違
④ 深い融合関係を作る遅い情報か、切り取られた速い情報かという相違
⑤ 活字メディアか、電気的メディアかという相違

問7　傍線番号(27)・(30)・(31)・(33)・(34)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

30 ～ 34

(27)

30　総ショウ

① 社訓をショウ和する
② 敬ショウを略す
③ 国から表ショウされる
④ 一ショウに付す
⑤ 試合に連ショウする

(30)

31　イ任

① イ外な展開だ
② イ労会を開く
③ イ儀を正す
④ 作家に原稿をイ頼する
⑤ 図書イ員になる

(31)

32　ハイ聴

① 名選手をハイ出する
② 許しがたいハイ信行為
③ 手紙にハイ啓と書く
④ 行き届いたハイ慮
⑤ 政治が腐ハイする

(33)

33　カン起

① 証人をカン問する
② 窓を開けてカン気する
③ 退職をカン告する
④ 損得をカンじょうに入れる
⑤ 文化にカン心を持つ

(34)

34　ドウ察

① 労ドウ時間の短縮
② 生徒を指ドウする
③ 挙ドウ不審な人物
④ 報ドウ番組を見る
⑤ 産業が空ドウ化する

問8　傍線番号(28)・(29)の語句の品詞を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。 35 ・ 36

(28)　新しい　35

(29)　ような　36

① 副詞　② 形容詞　③ 形容動詞　④ 助詞　⑤ 助動詞

問9　傍線番号(32)「そこ」の内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 37

① 伝統的な社会　② コミュニケーション　③ 相手の心の中　④ 相手　⑤ 相手への共感

問10　空欄番号 (35) に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 38

① 道徳　② 市民　③ 帰属　④ 潜在　⑤ 国家

問11　本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。 39

① コミュニケーション技術の進歩が社会を結びつけるという考えは間違いで、時代と共に人々は集団から個人へ向かう。
② 地球市民を誕生させるためには、強制的統一ではなく、電子メディアによる価値の多様性の拡大を図るべきである。
③ 現代のコミュニケーション技術は、人々の視野を国家を超えて広げると同時に、文化的には分散化を促す面をもつ。
④ マクルーハンは現代の電気的メディアを過大評価しており、印刷メディアの功績を正しく評価していない嫌いがある。
⑤ 単一の地球文化を生み出すという理想は、現在のところ実現していないが、電気的メディアはその可能性を有している。